夢のつばさプロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」へのご支援に感謝を込めて：活動概要のご報告

お茶の水女子大学名誉教授　室伏 きみ子

「夢のつばさ♥プロジェクト」が始動して、今年の春に4年目を迎えました。この間、多くの企業や個人の皆様のご助力を頂いて、東日本大震災の被災孤児・遺児を支援する活動を続けてくることが出来ました。開始に当たっては、子ども達の情報を得るのが極めて困難な中で、同窓会の東北3県の皆さまが、教育委員会などを通じた情報収集や本活動の広報にご協力下さいました。本稿では、夢のつばさ♥プロジェクトの活動概要をご報告し、この活動を支え、見守って下さる皆様への感謝の気持ちをお伝えさせて頂きたく存じます。

1. 活動の立ち上げ

2011年3月11日に宮城県牡鹿半島東南東沖で発生したマグニチュード9.0の未曾有の大地震と、東北地方太平洋岸を襲った巨大津波は、2万人を超える死者・行方不明者を出し、多くの家屋財産を破壊流失させるという壊滅的な被害をもたらしました（2014年3月11日現在の警察庁のまとめによると、死者15,884名、行方不明者2,633名。加えて、避難生活で体調を崩したなどの理由で亡くなった「震災関連死」と認定された人数は岩手、宮城、福島、茨城、埼玉の5県で1,400名余にのぼると報道されています）。さらに、津波による東京電力福島第一原子力発電所の電源喪失と浸水によるメルトダウン・水素爆発は、放射能による環境汚染というこれまで我々が経験したことのない災禍をもたらしました。その中で、多くの子ども達が父母や家族を失いました。私達は、それらの子どもたちを支援したいと願って、4月から様々な方々のご協力を得て「夢のつばさ♥プロジェクト」を立ち上げました。並行して、同窓会の皆さまのご助力により、被災各県や幾つかの市町村を訪問して、各地の教育委員会や児童相談所などとの間で連携関係を構築することができました。その結果、孤児・遺児の状況把握が可能となり、また、教育委員会や児童相談所の方々に子ども達との連絡業務を引き受けて頂けることになりました。

◆ 植樹祭（2011年夏のキャンプにて）
「あすなろ」の苗木を植え、これからともに成長しようと誓いました。

2. 夢のつばさ♥プロジェクトの概要

本プロジェクトは、孤児・遺児となった子どもたちを成人するまで見守り、将来に向けて自らの夢を実現する力を育てていこうとするもので、学校の長期休み（夏と冬）に宿泊型のキャンプ（原則3泊4日）と、日帰りの交流会（春と秋）を行い、活動を共にする子どもたちが、心を開ける仲間を作り、さまざまな体験をして学び合い、将来に向けてこの活動を自ら担っていくことができるように支援するものです。ボランティアの大学生らが子どもに直接関わって活動し、それを大人（個人や団体）が物心両面から支援していくという仕組みで続けていくことを特徴としています。

活動母体はお茶の水学術事業会を中心とした4つのNPO法人（遺伝カウンセリング・ジャパン、ウェアラブル環境情報ネット推進機構、全国てらこやネットワーク）で、実働部隊として、お茶の水女子大学，明治学院大学，東京大学，早稲田大学，東京文化大学，國學院大学，東京学芸大学，一橋大学，明治大学，埼玉大学，津田塾大学等の学生（約50名が登録済み）と約20名の社会人がボランティアで参加して下さっています。財政的には、様々な企業・団体や個人の方々から温かいご支援を頂くことができ、特別協賛として（株）ブリヂストンがキャンプ活動の拠点となる宿泊施設（同社保養所）などの提供を、（株）

冨山房インターナショナルがボランティア学生を支援する役割などを担って下さっています。お茶の水の複数の同窓会（桜蔭会，作楽会，鏡影会）からも、継続してご支援を頂いています。

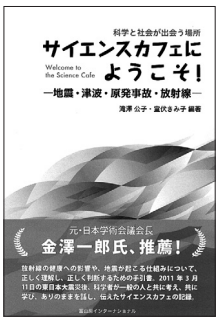
3. これまでの活動実績

以下に、簡単に活動実績をお示しします。活動組織や様々な活動の詳細は、HPをご覧頂きたく存じます。
（http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/）

2011年 8月	夏のキャンプ（ブリヂストン奥多摩園にて）
2011年12月	クリスマスキャンプ（ブリヂストン奥多摩園にて）
2012年 5月	春のキャンプ（花巻、遠野にて）
2012年 5月	保護者との懇談会（仙台にて）
2012年 8月	夏のキャンプ（ブリヂストン軽井沢山荘にて）
2012年10月	保護者との懇談会（仙台にて）
2012年12月	クリスマスキャンプ（ブリヂストン軽井沢山荘にて）
2013年 3月	春の交流会（仙台にて）
2013年 5月	保護者との懇談会（仙台にて）
2013年 8月	夏のキャンプ（ブリヂストン奥多摩園にて）
2013年10月	保護者との懇談会（仙台にて）
2013年12月	クリスマスキャンプ（ブリヂストン奥多摩園にて）
2014年 3月	春の交流会
2014年 8月	夏のキャンプ（ブリヂストン奥多摩園にて）

4. その他の活動

本プロジェクト関係者は、大震災直後から、震災や原発事故の復旧作業に当たる方々への激励の活動や、日本赤十字社やその他の団体への寄付を行うことで、被災した方々への支援を開始しました。また、社会に広がる放射線への不安や風評被害を低減するために、大震災と原発事故の実態を科学的に理解し、適切に行動するための一助として、サイエンスカフェ（日本学術会議、冨山房インターナショナル共催）における東日本大震災特集を企画・開催し、2012年3月11日に「サイエンスカフェにようこそ！―地震・津波・原発事故・放射線」を刊行しました。並行して、NPO法人遺伝カウンセリング・ジャパン（理事長：金澤一郎）では、遺伝カウンセリングの専門家による放射線被曝に対する正確な知識の普及を目指す冊子の発行を発案し、4月半ばには日本遺伝カウンセリング学会などとともに、「放射線被曝への不安を軽減するために」を刊行して東北各県の医療従事者や教育関係者、一般の方々へ配布や、HPへの掲載を行いました。



◆ 自由研究（夏キャンプ）
キャンプでは子どもたちに自ら学ぶ習慣をつけて欲しいとの思いから、勉強の時間も設けています。

◆ 音楽会（冬キャンプ）

◆ がん研有明病院訪問（夏キャンプ）
キャリア教育の一環としてパン工場や病院を見学しました。

5. これからの活動

今後、大学等へ進学する子ども達のための進学相談や奨学基金の設立なども計画しており、また、子ども達を育てて下さっている保護者の方々とお会いしてお話を伺う活動も、続けていきます。子ども達が自立した大人となって、自ら道を切り開いていく力を身に付けることが出来るよう、キャンプに参加している子ども達が成人するまでの間、見守って行きたいと考えております。一番小さな子どもはまだ7歳ですので、これから少なくとも13年は頑張ります。

これまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともお励ましいただけますよう、心からお願い申し上げます。

ご寄付のお願い

【口座】三井住友銀行　大塚支店（店番号227）普通1284200
【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子（この口座は、夢のつばさ専用口座となっております）
ご協力いただける範囲でご寄付賜りますれば幸いです。ご芳名、ご住所（連絡先）を下記までお知らせくださいませ。
領収書をお送りいたします（恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください）。
連絡先：事務担当　滝澤公子　TEL&FAX：03-5978-5362　Email：tsubasa@npo-ochanomizu.org